

英語の基礎－7

☆「日本語」と「英語」との違い⑥・・・『単語の基本的な考え方』

英語には、<特定の形の有るもの> と <特定の形が無いもの> を明確に分けて考える特徴があり、その違いを“a”を付けるか付かないかで区別している。

たとえば「水」は「water」だが、絶対に「a water」とは言わない。

また「ペン」は単語としては「pen」だが、文で使われるときは「a pen」になる。

<形の有るもの>とは二つに切ったときに“壊れてしまう”“使えなくなる”もののことで、<形の無いもの>とは、単に“量が減る”だけで使い方や性質はまったく変化しないものことである。

だから、次のような単語については注意をしなければならない。

「犬」は英語で「dog」だが、「a dog」とは言わずに単に「dog」と言った場合は「イヌの性質を持っているが、特定の形の無いモノ」という意味になり、「イヌの肉」という意味になってしまう。

一般的にはこの“a”を「ひとつの」や「一個の」という意味で教えるが、実際はそんな単純なことではなく、もっと重大な意味が込められていることを知らなければならない。

これがやがて「単数・複数」や「可算名詞・不可算名詞」などの文法に発展して行く。

辞書では①(可算名詞:形がある・数えられる)と、②(不可算名詞:形がない・数えられない)とで区別している。(①・・・countable / カウントブル , ②・・・uncountable / アンカウントブル)

1, 次の語は、英語では<特定の形が有る>と<特定の形が無い>のどちらに分類されますか。

① 「空気」 (air)

< ① . ② >

② 「鉛筆」 (pencil)

< ③ . ④ >

③ 「紙」 (paper)

< ⑤ . ⑥ >

④ 「砂糖」 (sugar)

< ⑦ . ⑧ >

⑤ 「川」 (river)

< ⑨ . ⑩ >

⑥ 「チーズ」 (cheese)

< ⑪ . ⑫ >

⑦ 「お金」 (money)

< ⑬ . ⑭ >

⑧ 「硬貨」 (coin)

< ⑮ . ⑯ >

⑨ 「チョーク」 (chalk)

< ⑰ . ⑱ >

⑩ 「牛乳」 (milk)

< ⑲ . ⑳ >

⑪ 「山」 (mountain)

< ㉑ . ㉒ >

⑫ 「砂」 (sand)

< ㉓ . ㉔ >

⑬ 「ご飯」 (rice)

< ㉕ . ㉖ >

⑭ 「星」 (star)

< ㉗ . ㉘ >

⑮ 「パン」 (bread)

< ㉙ . ㉚ >